

国内ロングステイの現状と課題

— 国内長期滞在施設の事例 —

黒田 明雄

倉敷芸術科学大学産業科学技術学部

(2015年10月1日 受理)

1 はじめに

非日常性を伴う旅行は、余暇利用で最も人気がある。その中でロングステイは、収益労働を伴わない余暇利用のライフスタイルのひとつである。移住ではない。ロングステイと聞けば、海外ロングステイを連想する人はいても、国内ロングステイをイメージする人は少ない。

1986年に通商産業省（現：経済産業省）から海外ロングステイの原案¹⁾が提案された。その後、約30年経過した今、国内にさまざまな長期滞在施設が作られ、国内ロングステイをしている人を見かけるようになった。国内ロングステイとは、滞在期間の長短はあるが、一時的に国内の他地域で暮らす着地型の生活スタイルである。国内ロングステイは、海外の場合と比べて異文化性は高くないものの、医療、治安、言葉などに関して大きなエネルギーを費やす必要がない。生活を伴うため地域の経済効果や地域活性化に寄与するとされている。

国内ロングステイに関する先駆的調査及び研究は、2000年に国内ロングステイの普及を目指す畠田展行氏が設立したロングステイ別府研究会²⁾の調査活動と同氏の研究³⁾である。また、観光ジャーナリスト千葉千枝子氏は、2008年から国内ロングステイについて学会発表⁴⁾している。さらに、会社を退職した能勢健生氏は、自ら国内ロングステイを実践して「ちょっと田舎で暮してみたら」（2010）を公刊している。ロングステイ財団は、2008年から国内ロングステイ意識調査を開始し、その普及・啓発活動を業務に加えた。



写真 長期滞在施設ホリデーハウス御園

そして、2010年に国内ロングステイの定義を「主たる生活の拠点のほかに、日本国内の他の地域で比較的長く（1週間以上）または繰り返し滞在し、その滞在地域のルールを遵守しつつ地域文化とのふれあいや住民との交流を深めながら滞在するライフスタイル」⁵⁾とした。国内ロングステイ希望者のニーズや傾向は「ロングステイ調査統計2014」⁶⁾から読み取ることができる。しかし、国内ロン

グステイに対応した長期滞在施設や滞在者の実態は十分に把握されていない。

筆者は、これまでのマレーシアや他地域の海外ロングステイ調査経験から、さまざまな点を国内ロングステイの場合と比較してみた。国内には湯治文化はあるが、着地型の国内ロングステイの普及は進んでいない。その要因のひとつに、地方にモデルとなる長期滞在型施設が少ないことがあるのではないかと考える。

財団の意識調査では、国内ロングステイの滞在施設の課題として、「泊食分離」「1部屋単位での週単位・月単位料金設定」「キッチン・家具・家電製品・什器備品整備」「インターネット環境整備」が上位を占める。畠田氏は、長期滞在外への聞き取り調査から、1週間以上の長期滞在型観光の普及は、欧米のホリデーハウス（貸別荘）タイプの「安価で良質な長期滞在施設」「手頃な値段で快適な長期滞在施」の提供が鍵と主張している。⁷⁾

本稿では、財団の意識調査を中心に国内ロングステイ希望者のニーズを概観する。さらに、手頃な値段の国内ロングステイ向き長期滞在施設を事例として取り上げ、ロングステイの普及を考える一助としたい。事例は、筆者が調査した施設⁸⁾とネット検索⁹⁾による施設の中から、「月額賃貸料金15万円程度」「泊食分離」「キッチン完備」「1部屋、週・月単位料金設定」を基準に選択した。

2 国内ロングステイに関する意識

ロングステイ財団では、一般人を対象とした国内ロングステイに関するインターネット意識調査を毎年実施している。国内ロングステイのニーズや方向性を分析し、2010年に国内ロングステイの基本的な考え方及び定義を明確にした。

本項では、全国の不特定多数の30代未満から60代以上の各世代1,648人に意識調査した「ロングステイ調査統計2014」から国内ロングステイ希望者のニーズや傾向を概観するとともに、前述の畠田氏の研究や筆者の調査経験を交えて記述する。

1) 国内ロングステイの希望都道府県

2009年から6年連続して上位4県は順に沖縄、北海道、京都、長野、2012年から3年間連続して5位に東京があがってきている。選択理由の上位は、気候、好きな地域、環境、利便性、温泉、風光明媚、設備・情報の充実の順になっている。

2) 国内ロングステイの希望滞在期間

財団では国内ロングステイの定義である「1週間以上」に合わせて希望調査をしている。結果は「1～2週間未満」20%、「2週間～1ヶ月未満」25%、「1～2ヶ月未満」16.7%の順であり、1週間から1ヶ月未満の希望者が、約半数いることが分かる。

畠田氏が全国規模で実施したネット調査（2011）¹¹⁾の国内ロングステイ経験者703人の分析結果でも、月単位のニーズより1～2週間が84.7%と圧倒的多数を占めた。2週間

表 ロングステイ希望都道府県上位 10 (2007 - 2014) ¹⁰⁾

順位	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
1	沖縄県							
2	北海道							
3	長野県	長野県	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府	京都府
4	京都府	静岡県	長野県	長野県	長野県	長野県	長野県	長野県
5	宮崎県	東京都	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	東京都	東京都	東京都
6	静岡県	京都府	静岡県	長崎県	東京都	神奈川県	神奈川県	福岡県
7	鹿児島県	宮崎県	東京都	宮崎県	宮崎県	鹿児島県	福岡県	静岡県
8	高知県	神奈川県	宮崎県	高知県	高知県	静岡県	鹿児島県	神奈川県
9	神奈川県	鹿児島県	長崎県	東京都	長崎県	宮崎県	静岡県	宮崎県
10	愛媛県	兵庫県	高知県	福岡県	愛媛県	福岡県	宮崎県	鹿児島県

または月単位の連続休暇の取得は現役世代には困難であるが、退職したシニア世代には可能な滞在期間である。滞在型の国内ロングステイの普及には、週単位の滞在スタイルの浸透を図る試みが重要と考える。

3) 国内ロングステイの希望同伴者

財団の意識調査によると、国内ロングステイの希望同伴者の上位は、配偶者 60%、単身 23%、子供や孫 17% の順である。ペット同伴希望も少なくない。

後述する別府ホリデーハウス御園での調査¹²⁾では、利用者は休暇をとりやすい年金生活の夫婦が約半数を占める。しかし、20代から50代の現役世代の家族も増えている。このことは時間的制約が比較的少ないシニア世代だけでなく、1週間程度休暇がとれる子育て世代の人であっても、家族を伴った国内ロングステイをしていることを物語る。

また日本では一人当たりの料金設定をしている施設がほとんどであるが、海外では部屋単位の料金設定が主である。国内ロングステイの推進には、一人あたりの料金設定でなく、家計負担の少ない部屋単位・週単位の料金設定が前提である。

4) 滞在施設への要望

海外ロングステイでは、安全面からセキュリティー付のコンドミニウムを選択する人が多いが、国内には、多様な長期滞在施設がある。財団の意識調査では、生活設備を備えた賃貸アパート・マンションの希望が群を抜いて1位である。続いて、一軒家、温泉付旅館、リゾートホテル、民宿・ペンション、古民家・町屋、ホテルなどである。

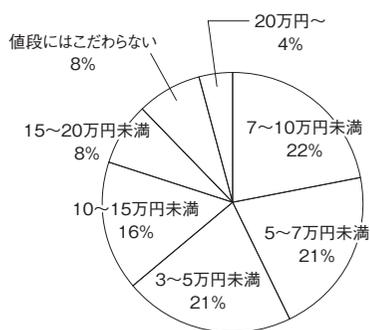
次に滞在施設への要望上位は、キッチン、家具・電化製品・什器、インターネット、貸自転車などの整備である。また、公共交通機関が近くにあることも要望が上がっている。さらに週単位・月単位の料金、1部屋単位の料金、施設設備一覧の明示、ロングステイ滞

在対応施設と分かる表示、滞在施設を簡単に検索できるサイト、ロングステイ施設のランク付けなどの要望がある。設備品や必要経費の表示は、運営会社によりまちまちで一定の基準はない。

5) 滞在施設の希望費用

財団の意識調査によると、月単位で10万円以下の希望者が約64%を占める。内訳は7～10万円22%、5～7万円21%、3～5万円21%である。続いて10～15万円という希望者は16%である。月額15万円までの希望は約80%を占めている。良質な滞在施設を安価な料金で利用できることにこしたことはないが、適切な対価を払うことなく快適な滞在生活を求めることは困難である。国内ロングステイの普及の鍵は、泊食分離で1部屋単位の月単位賃貸料金が15万円までというのが手頃な値段の目安と考えられる。手頃な値段には幅がある。国内ロングステイ実践者の中には、北海道でボランティアを条件に安価な値段で滞在施設を借りている例もある。

月単位の国内ロングステイ向きの長期滞在施設には、敷金・礼金は伴わないが、保証金



(デポジット) を求める場合もある。施設によっては光熱費、清掃費などの経費が必要である。滞在生活には、住居費の他に食費や交通費などの経費も加算される。国内ロングステイの普及の鍵は宿泊施設の賃貸料金である。手頃な利用料金の長期滞在施設が国内各地に増えていけば、1週間からの国内ロングステイの流れを創出することにつながる。

図1 宿泊施設の希望費用 (月額) ¹³⁾

3 国内ロングステイ向き長期滞在施設の事例

本項では、先ず先駆的事例の別府のホリデーハウス御園を取り上げ、続いて、希望地上位を占める沖縄、北海道、京都、長野などの事例を記す。選択基準は前述のように「月額賃貸料金15万円程度」と「泊食分離」「キッチン完備」「1部屋週・月単位料金設定」とした。地域を挙げて取り組んでいる事例は、それも合わせて述べる。

1) 別府のホリデーハウス御園

当施設は国内ロングステイ普及を目的に開設した長期滞在施設の先駆的事例である。

元立命館アジア太平洋大学の畠田氏は、2000年、別府を拠点に主として定年退職者を対象とした国内の長期滞在型観光の普及・啓発を目的にロングステイ別府研究会を設立した。シニア世代の海外ロングステイの動向や欧米のホリデーハウスの利用実態に着目し、国内にも欧米のような1ヶ月程度のロングステイの流れの創造を模索している。2009年に



図2 ホリデーハウス御園¹⁴⁾

増やすことを目指している。

週単位の賃貸料金は、1週間20,000円、2週間30,000円、3週間40,000円、4週間50,000円と利用しやすい。光熱費や消耗品は利用者負担である。原則4名までで家族滞在が可能である。付帯設備は、テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、ドライヤー、調理器具、食器、掃除機に加えて、4組の寝具一式である。すぐに普段の生活を始めることができる。

開業から6年を超え、100組200名を超える長期滞在者がいると推察される。2015年の稼働率は予約状況からみると約65%である。12月1月2月の予約はほとんどないが、3月から11月までの稼働率は非常に高い。夫婦二人だけでなく家族の滞在もある。筆者は、畠田氏に同行して、ホリデーハウス御園に長期滞在する夫婦のインタビューに同席した。¹⁵⁾ 愛知県から自家用車で来た60代の夫婦は、海外ロングステイの経験者であった。

ホリデーハウス御園は、「総事業費約760万円の75%を公的補助と寄付でまかない、古民家を無償で借り受ける好条件」¹⁶⁾で古民家を再生した実験的滞在施設である。交通の便に恵まれた所に立地しているわけではないが、利用者のニーズを考慮した賃貸料金と付帯設備を明示することにより、都市圏からも利用者を集めている。

2) 沖縄の長期滞在施設

沖縄コンベンションビューローが運営する観光情報ポータルサイト「おきなわ物語」に、不動産業者のウィークリー・マンスリーマンション情報がある。那覇の中心部には、ロングステイに向けたマンションタイプの滞在施設が数多くみられる。



図3 新都心IIの1LDK¹⁷⁾

畠田研究室と別府の内成地域が、公的資金を利用し古民家を再生したホリデーハウス御園を内成にオープンし、長期滞在者を受け入れている。

内成地区は別府中心部から15分程度離れた山間部に位置し、自家用車の必要性がある。宿泊施設の運営やサポートは、御園部会に所属する地域住民のボランティア活動でおこなっている。現在は一軒家だけであるが、畠田氏は将来的には日本版のホリデーハウスを

不動産業者SUMOKAの物件「新都心II」の場合、二人滞在に適した1LDKは月115,000円で、光熱費、クリーニング費、駐車場は別払いである。長期滞在中自由に行動したいのであれば、交通手段として、別途レンタカーの費用がかかる。

標準備品の家電製品として、クーラー、テレビ、冷

蔵庫、全自動洗濯機、電子レンジ、掃除機、衣類乾燥機、炊飯器、電気ポット、ガスコンロ、ドライヤー、家具類にベッド、机、イス、ソファ、ローテーブル、寝具・家具類、食器類、キッチン用品が一式揃っている。必要な生活設備が完備されていて、良質な長期滞在施設である。

筆者のインタビュー調査¹⁸⁾では、島根県の60代夫婦が3年続けて冬期の3か月間、避寒滞在が目的で沖縄各地の賃貸アパートで過ごした事例があった。鹿児島からフェリーで軽四自動車を手配したり、レンタカーを利用したりして、島内をくまなく観光し、島民との交流を楽しんでいた。シーズンを3度繰り返した国内ロングステイである。

3) 北海道の長期滞在施設

2006年、北海道で移住誘致政策「ちょっと暮らし」が始まった。現在、「北海道移住促進協議会」とNPO法人「住んでみたい北海道推進会議」が「北海道で暮らそう」¹⁹⁾のポータルサイトを運営し、合わせて「北海道ではじまる暮らしガイドブック」²⁰⁾を発行している。道内128市町村が参加するまでに拡大し、各地域の「ちょっと暮らし施設」を掲載し検索できる。「ちょっと暮らし」とは、「道内の市町村等が運営主体となり、北海道への移住や二地域居住等を希望している人に対し、生活に必要な家具や家電を備え付けた住宅等を用意し、その地域で生活をしていただくもの」²¹⁾である。「ちょっと暮らし」は移住を視野に入れた組織的な試みで、利用者数は年々伸びている。移住希望者だけでなく、当該市町村に関心がある人にも利用可能な滞在施設情報がある。

「ちょっと暮らし施設」は、一戸建て、アパート、ホテル、コテージなどで週単位・月単位の賃貸料金を明示している。小樽やニセコなどでは、月単位15万円を超える滞在施設もあるが、地域によっては月単位10万円以下の比較的利用しやすい施設もある。

以下は平成26年度の道内の「ちょっと暮らし施設」利用者のアンケート結果²²⁾の概要である。

- ・年間2,526人が利用し平均滞在日数は26.4日である。
- ・利用者の76%は3大首都圏からである。
- ・60代以上が70%を超え、20代から50代の現役世代の利用者もいる。
- ・利用者は夫婦65%、家族19%、単身10%である。
- ・シーズンステイや二地域居住を考える人が約74%いる。
- ・滞在施設を拠点に約70%の人が旅行をしている。
- ・滞在期間で一番多い利用施設はスーパーや商店、次に病院である。
- ・地元の人と知り合う機会を持っている人が70%以上いる。
- ・利用者数と滞在日数で上位の3市町村は、釧路市、浦河町、ニセコ町である。

釧路市は平成26年度295人の長期滞在者を受け入れ、4年連続全道1位となっている。その理由のひとつに手頃な滞在施設の情報の多さが挙げられる。

釧路市役所のホームページに「くしろ長期滞在ビジネス研究会」（2009年設立）という団体の掲載情報がある。当研究会は、「長期滞在者や移住者を釧路市へ受入れるため、釧路市役所が事務局となり、市内のホテル業者・不動産業者・タクシー会社・レンタカー会社・観光団体が連携し設立された団体」である。運営サイト「北海道涼しくくしろで避暑生活」²³⁾の「マンスリーマンションで避暑生活」の中に、7つの不動産業者の国内ロングステイに向けたさまざまな長期滞在施設の情報があがる。

以下は釧路の長期滞在施設「ちょっと暮らし施設」リバーハイツ（図4資料1・2）²⁴⁾の事例である。



図4 リバーハイツの1DKタイプ

資料1 リバーハイツの賃貸費用

賃貸料	60,000円/月
公共料金	賃貸料含む
駐車料	5,400円(税込)/月(1台)
冬季費	10,000円/月(10~4月)
保証金	30,000円

資料2 リバーハイツの電化製品一覧

テレビ	テレビ台	冷蔵庫	洗濯機	掃除機	電子レンジ
炊飯器	目覚し時計	ガスコンロ	暖房器具	照明器具	給湯設備

リバーハイツの場合、電化製品のほか寝具・水回り品・リネン品・家具・雑貨に至るまで整備されている。不動産業者の賃貸物件により月単位の必要経費が異なるが、全体的に長期滞在しやすい料金である。

このような施設が北海道の各地にみられる。「ちょっと暮らし」は移住支援を視野においた、お試し滞在施設の提供であるが、このシステムを利用して各世代が、過ごしやすい夏場に、主に周辺観光やのんびりした時間を過ごすことを目的に滞在している。滞在中に、写真撮影、スキー、ボランティア等に時間をかける人もいて、人それぞれの滞在スタイルがみられる。畠田氏は、「北海道は将来の国内ロングステイ市場を映し出す鏡である。」²⁵⁾と述べている。

4) 京都の長期滞在施設

2013年に開業したピースホテル京都²⁶⁾は、京都駅まで数分の交通の便がよい位置に立地している。清潔感があり外国人の若者に人気がある。4種のドミトリと4種のプライベートルームがある。部屋は狭いが無料WiFiが使え、共用スペースは充実している。

共同キッチンには、冷蔵庫、IHクッキングヒーター、トースター、電子レンジ、各種調理用器具が整備されている。洗濯機はコインランドリーを利用し、トイレとシャワーは共同利用である。一人部屋の1泊料金は朝食付4,000~4,800円、二人部屋は朝食付6,800

～7,800円である。

若い世代が多く利用する施設ではあるが、1週間程度の京都観光の拠点となり得る。ゲストハウスをグレードアップしたタイプの宿泊施設である。また他にも京都らしい町屋を利用した滞在施設も多くみられるが、賃貸料金の点で前述の基準に適合する施設は多くないように思われる。

5) 長野の長期滞在施設

2007年から不動産業者の企画に参加した長野県北信州の7軒の旅館・ホテル・山荘が、空き部屋の有効活用から庶民感覚の国内長期滞在型旅行を提案している。敷金、礼金、後清算金は一切不要で、利用条件を各施設とも統一的に明示している。(2015年8月時点6軒受入可)

冬期に利用者が多いアスペン志賀²⁷⁾は、志賀高原の観光拠点ジャイアントスキー場に位置する。泊食分離で、自炊可能な大きな共同キッチンがある。1部屋単位料金制で、8畳和室(定員3名)は、1週間36,000円(トイレ付+5,000円)、2週間60,000円(トイレ付+8,000円)、月単位では109,000円(トイレ付+15,000円)の料金である。若干高くなるが10畳和室の利用もできる。洗濯機と乾燥機はコインランドリーを使い、源泉かけ流し温泉、WiFiが無料で利用できる。設備や室内は真新しさには欠けるが、週単位・月単位のロングステイが可能な長期滞在施設である。繁忙期のスキーシーズンと夏場の合宿時期には長期滞在できない。信州の山歩きや周辺観光の拠点となる。

志賀高原の麓にある湯田中の旅館も、長期滞在用の部屋を確保している。旅館の一部屋に滞在し、自炊設備を利用できる。冬場はスキー愛好家のリピーターによく利用されている。

6) 山形県の長期滞在施設

2008年開業のせんしん館²⁸⁾は、山形県最上町赤倉温泉にあるホテル・旅館タイプのマンスリーマンションである。最上町役場が民間に経営を委託している。当施設は、福祉の増進と地域振興を図る目的で町が設置し、住民以外にも開かれた施設である。冬期はスキー場が近くにあり余暇を十分楽しめる。

一つの建物に定員2名から7名の4タイプ(ABCD)の部屋が計20部屋ある。泊食分離で全室に自炊可能な設備があり1部屋単位の料金制である。1ヶ月当たりの家賃は水光熱費を含み39,000円から69,000円と利用しやすい。その他必要な経費として入湯税や退去時の清掃費がかかる。温泉地の湯治可能な宿泊施設を進化させた事例である。



図5 Aタイプの部屋²⁹⁾

各部屋の付帯設備は、フライパン・鍋（大、中、小）・ポット・やかん・冷蔵庫・炊飯器・電子レンジ・テレビ・茶道具・グラスである。食器やスリッパなど必要な物品は各自が持参となっている。洗濯や乾燥はコインランドリーを利用する。夫婦二人で月単位の滞在となると、ある程度の部屋の大きさ、部屋数、付帯設備が条件となり、賃貸料金がかさむが、当施設は手頃な値段で国内ロングステイ向けの長期滞在施設である。

7) 岩手県の長期滞在施設

遠野市にあるコテージランドかしわざは、公的資金が投入されたコテージである。Aタイプ2棟、Bタイプ3棟、Cタイプ10棟の3タイプがあり、計15棟の独立した施設を有する。2名から6名まで宿泊可能である。2007年から柏木平レイクリゾートが引き継ぎ管理運営している。

人気のあるCタイプは、和室6畳、ベッドルームの2LDKである。マンスリープランは、2名で66,800円に光熱費と諸費用が加わる。ウィークリープランは、基本料金25,720円に一人5,150円×利用者数が加算される。これらのプランは、繁忙期のゴールデンウィーク期間、シルバーウィーク、年末年始、7月8月は利用できない場合がある。5月上旬から7月中旬、9月10月は比較的に利用しやすい期間である。洗濯機と乾燥機は有料であるが、基本的な生活設備はそろっている。



図6 Cタイプのコテージ³⁰⁾

AタイプとBタイプは間取りが若干広がるが、ウィークリープラン・マンスリープランとも賃貸料金は大きく変わらない。加算料金を払えば、6名までの家族滞在ができる。民間業者が一から手掛けた施設と異なるので、比較的に利用しやすい手頃な値段の施設である。施設の立地条件から買い物や周遊観光のためには車が必要である。

8) 大分県の長期滞在施設

2008年に開業したB・B・C長湯³¹⁾は大分県竹田市にある。クチコミ評価の高いホテルである。B・B・CとはB (bed) & B (breakfast) & C (culture) の略で、ロングステイ型プチホテルを標榜している。湯治療養ができる朝食・図書館付の滞在施設である。「体に優しい朝食付」を謳っており、完全な泊食分離ではないが各部屋にミニキッチンの設備があり、昼食と夕食は自炊可能である。付帯設備は、書斎、洗浄機付トイレ、IHクッキングヒーター、冷蔵庫、電子レンジ、トースター、電気ポット、炊飯器、食器類（皿・箸・グラス等）、鍋、包丁等である。貸自転車2台、洗濯機・乾燥機、風呂は外湯の温泉を無料で利用できる。

客室は小2中3大1計6室、定員1～2名タイプから定員1～4名の6タイプある。1泊

から最大で30泊まで利用可能である。5泊以上の長期滞在者には連泊料金の設定がある。小タイプで2名で5泊以上する場合、週単位（6泊7日）では約50,000円になる。月単位となると、手頃な値段の目安となる月額15万円の賃貸料金を超える。しかし、朝食や光熱費などを含む料金である。B・B・C長湯は、ロングステイを念頭に入れて開業した民間施設で、各所に工夫が感じられる。質を求める女性やシニア夫婦向きの滞在施設である。

4 国内ロングステイに関連して

国内ロングステイに関連して、次のような用語が使用されている。それらは「長期滞在」「長期滞在型観光」「二地域居住」「シーズステイ」「ちょっと暮らし」「田舎暮らし」「半移住」「短期移住」「中期移住」などである。それぞれの用語が統一性のないままに使用されている。

国内にはロングステイ可能な多様な長期滞在施設がある。別荘を所有して週末や月の半分を過ごす人、避寒、避暑として利用する人などもある。移動や普段の生活には自家用車を利用する人が多いが、過ごし方は人それぞれである。

キャンピングカーを購入し、夏場の北海道や冬場の九州で1ヶ月以上過ごす人もいる。滞在施設こそ利用しないが、観光地で消費したり、出会いを楽しんだりしている。これも広い意味では、車を居場所にしたある種の国内ロングステイである。

2008年創業したエアビーアンドビー（Airbnb）³²⁾が、インターネットにより世界各国の個人の空き部屋と旅行者をつなぐ宿泊マッチングシステムをつくった。日本にも個人がAirbnbに登録し、滞in者を受け入れる民泊施設がある。また、日本においても都市での宿泊をマッチングするサイト「TOMARERU」³³⁾がサービス開始の準備を進めている。新たなビジネス形態の位置付けには、実態把握と共に新たなガイドラインが必要と考える。今後の動向に注目したい。

団塊世代の退職が始まる前と比べると、週単位・月単位の国内ロングステイや長期滞在に向けた施設は増えてきている。人気のある沖縄・北海道・京都の長期滞在施設を検索すると、さまざまなサイトから施設の情報が発信されている。英語、中国語、韓国語に対応したサイトもあり、インバウンドロングステイに一役買っていると思われる。

財団の国内ロングステイ意識調査で約64%の人が月単位10万円以下を希望しているが、夫婦（家族4名）1部屋、1ヶ月10万円以内で賃貸可能な滞在施設を探し出すのは極めて難しい。月単位の国内ロングステイ（長期滞在型観光）の流れを創出するには、15万円を目安とする設備の整った長期滞在施設の拡大が鍵を握る。そのためにはまず、週単位の国内ロングステイの啓発が重要と考える。

5 おわりに

国内ロングステイが可能な施設には、高級コンドミニアムからゲストハウス、ウィクリー・マンスリータイプの施設に至るまで、実に多様な長期滞在施設がある。

本稿では、国内ロングステイ向き長期滞在施設の事例を取り上げた。選択基準を「月額賃貸料金 15 万円程度」と「泊食分離」「キッチン完備」「1 部屋、週・月単位料金設定」とした。

国内ロングステイ関連の情報は、さまざまなサイトから発信され散在している。情報収集は容易ではない。検索サイトの充実が課題である。北海道のように道内市町村と企業・団体が連携し、運営サイトやガイドブックなどで情報発信する取り組みは滞在者増加につながっている。

日本人にとっての国内ロングステイは、外国人にとっては海外ロングステイである。2020 年の東京オリンピックを控え、民泊システムを利用した訪日外国人滞在者の増加が予想される。余暇を利用した日本人のための国内ロングステイ施設の普及と充実は、外国人長期滞在者の増加にもつながる。

国内にロングステイの流れを創出するためには、手頃で良質な長期滞在施設の拡大が課題と考える。また、日本人だけでなく、経済力のある外国人長期滞在者を地方に呼び込む仕組みをつくることも課題である。

国内ロングステイについて意識調査はされているが、今後、経済効果の検証を含めて全国レベルの総合的な調査研究が必要である。

注及び引用文献

- 1) 海外滞在型余暇利用のライフスタイルの提案は「シルバーコロンビア計画」に遡る。この提案は発表後に内外から批判を受けたが、ロングステイ（＝海外ロングステイ）として引き継がれ、今日に至っている。
- 2) ロングステイ別府研究会 <http://www.longstaybeppu.net/modules/about0/>
ロングステイ別府研究会規約 <http://www.longstaybeppu.net/modules/about0/index.php?id=3>
- 3) 下記の論文と資料は、立命館アジア太平洋大学の畠田展行研究室を訪問した際に入手した。（2014. 3. 29）畠田氏は、2008 年からホリデーハウスの事例をベースに国内ロングステイに関して研究論文を発表している。
畠田展行「国内ロングステイ観光者の実態」日本観光研究学会全国大会学術論文集、25-28 頁、2012。
畠田展行「北海道における長期滞在観光市場を概観する」日本観光研究学会全国大会学術論文集、1-4 頁、2013。
別府市観光課／畠田研究室「国内ロングステイの実態とまちなか湯治」プレゼン資料、2013. 9. 20。
- 4) 以下は観光ジャーナリストの千葉氏の国内ロングステイに関する主な論文である。
千葉千枝子「国内ロングステイにおける観光振興とその事例」日本観光研究学会全国大会学術論文集、365-368 頁、2010。
千葉千枝子「伝統的地場産業における長期滞在型観光の振興事例と今後の課題」日本観光研究学会全国大会学術論文集、273-276 頁、2012。
千葉千枝子「長期滞在型観光にみる高齢者とツーリズム」都市計画 61 号、日本都市計画学会、42-45

- 頁, 2012.
- 5) 常岡武他 4 名編「ロングステイ調査統計 2010」一般財団法人ロングステイ財団, 2 頁, 2010. 海外のロングステイは 2 週間以上の定義に加え, 新規に国内のロングステイを 1 週間以上と明記した.
 - 6) 常岡武他 4 名編「ロングステイ調査統計 2014」一般財団法人ロングステイ財団, 95-101 頁, 2014.
 - 7) 前掲 3) 畠田氏の研究論文とプレゼン資料を参照のこと.
 - 8) 本稿に掲載する長期滞在施設と調査日は以下の通りである. ホリデーハウス御園 (2014. 3. 29) アспен志賀 (2014. 4. 29) ピースホステル京都 (2015. 8. 9) そのほかに沖縄のコンドミニウムや別府の湯治部屋, 蒜山の別荘等を調査している.
 - 9) 国内ロングステイ向き長期滞在施設の事例選択のために集中的にネット検索した期間 (2015. 8).
 - 10) 前掲 5) 98 頁, 2007-2013 の希望順位に, 財団発表の 2014 年調査データを追加して掲載.
 - 11) 前掲 3) 「国内ロングステイ観光者の実態」を参照のこと.
 - 12) 前掲 3) 「国内ロングステイ観光者の実態」を参照のこと.
 - 13) 前掲 4) 105 頁.
 - 14) ホリデーハウス御園の間取り図 <http://www.apu.ac.jp/research/uchinari/rooms.htm>
 - 15) 事前に記入されたアンケート用紙をもとに滞在に関するインタビューを実施した日 (2014. 3. 29).
 - 16) 畠田展行「国内ロングステイの市場性-ホリデーハウスの事例-」日本観光研究学会全国大会学術論文集, 212 頁, 2009.
 - 17) 中長期滞在型マンション情報掲載サイト <http://www.okinawastory.jp/search/portal/stay/weekly>
 - 18) 筆者は海外ロングステイ経験者への聞き取り調査とともに, 国内ロングステイ経験者にも聞き取り調査を実施している. その中の 1 組, 沖縄ロングステイ経験者の体験談である.
 - 19) 北海道移住促進協議会/NPO 法人住んでみたい北海道推進会議「北海道で暮らそう」のサイト <http://www.kuraso-hokkaido.jp/>
 - 20) 北海道移住促進協議会/NPO 法人住んでみたい北海道推進会議「北海道ではじめる暮らしガイドブック」2014 発行.
 - 21) 「ちょっと暮らし」の定義 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ckk/houdou270615.pdf>
 - 22) 前掲 17) と北海道庁「北海道で暮らそう」のサイト <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ckk/uiturn/iju-soku.htm> に掲載された北海道庁 2015. 6. 15 報道発表資料, 北海道体験移住「ちょっと暮らし」平成 26 年度実績.
 - 23) くしろ長期滞在ビジネス研究会「北海道涼しくくしろで避暑生活」のサイト <http://cool946.com/>
 - 24) 賃貸物件リバーハイツ http://cool946.com/modules/pico6/index.php?content_id=8
 - 25) 前掲 3) 「北海道における長期滞在観光市場を概観する」を参照のこと.
 - 26) 「ピースホステル京都」のサイト <http://www.piechostel.com/jp/>
 - 27) 「長期滞在 .com」のサイトで 7 軒の情報を発信, 「アспен志賀」のサイト <http://www.aspen-shiga.com/>
 - 28) 「せんしん館」のサイト <http://www.senshinkan.jp/index.html>
 - 29) 間取り図 <http://www.senshinkan.jp/price.html>
 - 30) コテージランドかしわざ <http://www.kashiwagidaira.jp/cottage/>
 - 31) 「B・B・C 長湯」のサイト <http://bbcagay.com/>
 - 32) 「Airbnb」のサイト <https://www.airbnb.jp/>
 - 33) 「TOMARERU」のサイト <https://tomareru.jp/>

参考文献

- 通商産業省産業政策局編『海外滞在型余暇-国境を超える余暇の将来展望-』財団法人通商産業調査会, 1988.
- 旅の促販研究所『長旅時代 ロングツーリズムの実態と展望』教育評論社, 2007.

- 畠田展行「新しいライフスタイル、国内ロングステイ」カレンツ No.104, 13-18 頁, 2007.
- 尾家建生・金井萬造編著『これでわかる！着地型観光』学芸出版社, 2008.
- 東北産業活性化センター編『地域資源を生かす滞在型ビジネス』日本地域社会研究所, 2009.
- 能勢健生『ちょっと田舎で暮してみたらー実践的国内ロングステイのすすめー』新潮社, 2010.
- 吉田直人『沖縄移住ガイド』イカロス出版, 2012.
- 馬場未織『週末は田舎暮らしーゼロからはじめた「二地域居住」奮闘記ー』ダイヤモンド社, 2014.
- ロングステイクラブ (1990 年設立) 案内 VTR の国内ロングステイ
<http://www.longstaykansai.org/lscimagevideo.html>
- 安田修の運営サイト, 沖縄移住情報のウィークリー・マンスリー・マンション情報
<http://www.interq.or.jp/tokyo/ystation/ok.html>
- 定年後の過ごし方とロングステイの旅 沖縄・石垣と国内・京都
<http://www.tt.em-net.ne.jp/~soy7686/ishi.html>
- 安田介三のロングステイ体験記 (2002 ~) 国内ロングステイ 8 回 (2000 ~2008)
<http://ryozo.web.fc2.com/>
- 北海道一年間長期滞在ロングステイは夢職のキックオフ <http://www.mctv.ne.jp/~takase/E2.htm>
- 北海道の長期滞在をはじめ車旅などの体験記 (1999 ~2013) <http://www.mctv.ne.jp/~takase-y/>
- 北海道中川町移住体験者インタビュー http://city.hokkai.or.jp/~kubinaga/iju/iju_top_index.html
- 公益社団法人北海道観光振興機構 2012 年度北長期滞在モニターアンケート報告
<http://longstay.visit-hokkaido.jp/monitor/>
- 一般財団法人ロングステイ財団の公式サイト <http://www.longstay.or.jp/>
- NPO 法人交流・暮らしネットのサイト <http://kurashi-net.com/>
- 一般社団法人移住・交流推進機構 ニッポン移住・交流ナビのサイト <http://www.iju-join.jp/>

The Present Situation and Problems of
the Domestic Long stay
— Domestic Long stay Facilities in Japan —

Akio KURODA

*College of Science and Industrial Technology
Kurashiki University of Science and the Arts,*

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2015)

The purpose of this paper is the spread of Japanese domestic long stay.

This is a case study of domestic long stay facilities in reasonable rent and high quality in Japan.

There are a variety of facilities from a luxury condominium to a guest house.

I made the criteria for selecting facilities of case study, which are based on my study.

They are “monthly rent at less than 150,000 yen” “staying overnights without meals” “fully equipped kitchen” “pricing for one unit by the week or the month”.

Domestic long stay means staying at a facility more than one week.

I took up eight cases; Okinawa, Hokkaido, Kyoto, Nagano and others. The type of the facilities, the rent, and the equipment are analyzed.

Domestic long stay for Japanese is the same as long stay in Japan for foreigners.

There are not many precedent studies on domestic long stay.

General research will be necessary including inspection of economic effect.